

創造・参加・実践

JR 西労組ひろしま

西日本旅客鉄道労働組合
 広島地方本部
 発行責任者 石松 大介
 編集責任者 好永 惇弥

広島市東区上大須賀町16-1
 新幹線西高架下3F
 JR (081)2473,2474
 NTT (082)261-6614

No.427

2024年3月18日

第33回地本委員会を開催！

安全を基礎に絆を強め、未来を切り拓こう！

2月17日(土) ホテルチュウリツヒ東方二〇〇一において、第33回地本委員会を開催しました。来賓として、中央本部より上村委員長、田中政策調査部長、川西教育部長、林執行委員が出席されました。委員会では、8名の委員から発言を受け、安全の確立に向けた取り組み、業務、2024春闘の具体的な行動について満場一致で承認されました。

委員会は、池田副委員長の開会あいさつで始まり、委員40名中、37名の出席により委員会成立を確認した後、議長に山一支部の吉松委員を選出し、議事を進めました。

石松委員長

挨拶



安全の確立について

福知山線列車事故からまもなく19年。備線触車事故から18年が経過しました。これまでの組合員の皆様の努力の積み重ねにより、JR西日本グループ全体の安全性は着実に向上している一方で、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」の初年度である

委員会の議事は、(1) 主な運動の総括①安全確立に向けた取り組み②コロナ禍の苦労に報いる一時金の要求について③2023年総合労働協約改訂・業務課題への取り組み④組

織の充実、強化、拡大の取り組み(2) 当面する活動方針① 私たちを取り巻く情勢② 具体的な取り組み方針について市川書記長から提案がありました。

2024春闘について

1月31日にJR西日本は第3四半期決算を発表し、通期の業績予想を上方修正しました。連合は今春闘を「ステージを変える春闘」と位置づけ、低下し続ける実質賃金に歯止めをかけるべく、定期昇給を含めて5%以上の賃上げを目指しています。

業務課題について

コロナ禍以降、効率化施策が立て続けに実

その後の質疑・応答では、8名の委員から発言を受け真摯な議論が交わされ活動方針などの提起事案について、満場一致の拍手で承認されました。そして最後に、石松委員長の団結ガンバローで、委員会は閉会しました。



進行を行う吉松議長

JR連合は連合方針に則り、月例賃金2%相当の定期昇給の完全実施のうえで、月例賃金の3%以上となる「純ベア1万円」を要求し、魅力あるJR産業の将来を創っていくことなどの方針を2月1日開催の中央委員会において確認しました。我々JR西労組は、それを踏まえた上で、「年度初における基準昇給の完全実施」「ベースアップ1万円」「年間臨給5・7ヶ月」を柱とする要求を2月5日の中央委員会に決定し、翌2月6日に会社に対して要求書を提出しました。業務課題について、効率化施策が立て続けに実

様が働きがいを持って仕事を続けられる環境を整えるために、様々な申し入れを行い会社と交渉を行っていき、職場の生の声を会社に届けることにより、より実効性のある改善策の策定につなげていかなければなりません。政策・政治活動について

地方ローカル線の問題は、国会で様々な議論がなされ、昨年10月に持続可能な地域公共交通をめぐり、改正地域交通法が施行されました。国土交通省は1月12日に芸備線備中神代駅〜備後庄原駅について再構築協議会の設置を決定し、3月26日に第1回の協議会が開催されます。地方ローカル線問題はJRで働く我々の労働環境や労働条件に与える影響が極めて大きく、これらの問題を各地方議会でも地方議員の皆様が所属議会で発言することは、世論喚起や自治体の政策に大きな影響を与え、結果として我々にも大きな影響が及ぶこととなります。組織内議員の皆様におかれましてはそれぞれ議会で我々JR西労組の立場を理解いただいたうえで、地域公共交通の今後のあり方などについてご発言をいただいておりますので、引き続きのご支援をお願いいたします。

質疑・応答

○ 大田 真太郎 (山一支部)



① 運賃の値上げについて (質疑)

JR各社と協力し、鉄道営業法の改正、旅客運賃の値上げを提案する。次年度以降、さらなるベースアップを実現するために、運賃を値上げすることが必要ではないか。

(回答)

① JR連合を通じて国に対して訴えていく。学割等の割引がJR負担となっているが、負担が企業負担とならないように制度要求もしていく。

○ 田村 優太 (山一支部)



① 要員、非番対応について (質疑)

本来業務とそれ以外の教育などについては線引きを行い、必要な要員を見直して配置することにより、時間外